

2019 年度 A O 選抜 文学部 東アジア研究学域
「課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
東アジア研究学域	10	7	6

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

第一次選考では、下記の 4 つのポイントについて、明確な文章で表現できているかどうかを評価しました。

- ① 中学・高校での学習・課外活動に対して、どのような姿勢で取り組んできたのか。
- ② 東アジア研究学域に入学後、どのようなテーマを研究したいと考えているのか。
- ③ 卒業後のキャリアに、東アジア研究学域での学びをどう活かしていきたいのか。
- ④ 東アジアを対象とする研究テーマや諸問題に対して、主体的な問題意識をもち、かつそれらに対して論理的・客観的な観点から論じようとしているかどうか。

(2) 解答状況

(1) にあげた 4 つのポイントのうち、①～③に関しては、明確かつ適切にまとめられているものが多くありました。その一方で、④に関しては、東アジアに関する事象を論じる際に、事実のみを羅列したものや問題意識が不明確なものがみられました。また、これまでの自分の経験や知識に関する記述に力点を置き過ぎるあまり、文章全体の構成が偏ってしまい、話の内容に一貫性を欠く結果となってしまったものも見受けられました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第二次選考では課題論文試験と面接を行いました。

課題論文試験に関しては、以下の点を評価ポイントとしました。

- ① 要約問題に関しては、課題文の内容を正確に理解した上で、一部分ではなく全体の論旨の流れを適切な表現で要約できているかどうか。
- ② 自由記述問題に関しては、課題文の著者の考えを踏まえた上で、東アジアに関する諸問題を具体的に提起しながら、自分の意見・見解を適切な表現で述べているかどうか。

面接に関しては、以下の点を評価ポイントとしました。

- ① 中学・高校での学習・課外活動に対して自己評価ができているかどうか。
- ② 東アジア研究学域を志望する理由と、入学後に計画している学びとが関連づけられているかどうか。

③ 卒業後のキャリアに関する目標を有しているかどうか。

(2) 解答状況

課題論文試験に関しては、多くの学生が 2 つの設問に対して的確に解答できていました。一方で、要約内容のバランスに偏りがあるものや、自分の考えについての論述が不十分なもの（文章構成が不明確で論旨の一貫性を欠くもの）も若干見受けられました。

面接に関しては、多くの学生が面接者の質問に対して、明確に答えることができていました。

(3) 試験（面接）内容

課題論文試験では、課題文の要約（800 字程度）と、その内容を踏まえた自分の考えの論述（1,200 字程度）の 2 つを出題しました。

面接では、高校での活動・大学進学後の学び・卒業後の目標や将来のビジョンなどについて幅広く質問しました。その他、適宜、課題論文試験に関する回答の内容を口頭で確認する質問をしました。

(4) 出題（面接）の意図

課題論文試験では、大学で学ぶための基礎的な力、特に文章読解力と自分の考えを文章で表現する能力（作文能力）について、受験生がどの程度身につけているのかを判断しました。また面接試験では、東アジア研究学域での学びに対する理解と意欲について確認しました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

文章の段落分けや冒頭の一字下げ、正しい漢字表記や適切な文体・表現など、原稿用紙を使って文章を書くトレーニングを、日頃から頑張りましょう。

東アジア研究学域は、文学・思想・歴史・文化・社会など多様な観点から、東アジア全般に関して学ぶコースです。従って、学生に対しても東アジア全体に対する幅広い視野に立った学びを深めていくことを求めています。受験生の皆さんも、どれか 1 カ国だけでなく、他の国々に対しても日頃から知識と関心を広げていくよう努力してください。

そして、東アジア研究学域ではどのような学びができるのか、自分はどこでどんなことを研究したいのか、それらについてもっと具体的に考えて、入学後の自己像をしっかりとイメージしておいてください。

以上